

27PE-am009

第一薬科大学における早期体験学習（病院）について

○大光 正男¹, 森田 桂子¹, 村上 克幸¹(¹第一薬大)

【目的】薬学教育6年制が平成18年度からスタートし、新しいカリキュラムの一環として、医療施設等での早期体験学習が導入された。早期体験学習は薬学生としての学習に対するモチベーションを高める上で重要であるが、本学では、くすり博物館、病院・保険薬局、製薬企業での体験学習と関連福祉大学と連携した不自由体験学習を導入している。今回、平成19年度の本学における、病院での早期体験学習の取り組みについて報告する。

【方法】病院での早期体験学習においては、本学教員が手分けして近隣病院を直接訪問することにより、受け入れ施設、受け入れ学生数、実施時期について事前調整を行った。早期体験学習終了後、本学学生を対象にアンケート用紙、体験学習レポートを配布し、見学終了後回収し、学習効果を評価した。また、見学終了後、学生自らが課題を見だし、それらを解決する能力を醸成するために、クラス単位(10名)でのスモールグループディスカッション(SGD)を行った。なお、病院薬剤師にも見学した学生に対するアンケート調査を依頼した。

【結果および考察】本学学生237名の受け入れ病院は17施設で、受け入れ学生数は、1回2~10名であった。早期体験学習の時期は、1年次の5~7月であった。事前学習として本学教員から「早期体験学習にあたっての心得」と「病院薬局業務」についての講義を行った。早期体験学習の見学内容については各病院に一任した。アンケートの回収率は、学生90.2% (n=237)、病院94.1% (n=17)であった。早期体験学習を通して学生がコミュニケーション能力の重要性や病院薬剤師の仕事が多岐にわたり、幅広い知識が必要なことを感じ取り、学習に対するモチベーション向上に繋がった。実施時期が早すぎる等の意見もあり、今後、これらの課題を踏まえて、よりよい早期体験学習が実施できるように努めていきたい。